

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

平成 28年 1月 6日

協議会名: 湖東圏域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【公共交通アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤通学、買い物、病院など日常のトリップについての調査 ・公共交通機関の認知度や満足度に関する調査 ・圏域内5,184世帯に配布、1,195枚回収(回収率21.8%) 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>自家用車への依存度や公共交通機関の満足度については、地域公共交通網形成計画の目標値に活用する。また、日常のトリップについては、再編実施計画の検討に活用する。</p>
<p>【現在の路線の利用状況の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口分布から、現在も将来的にも需要は見込めるものの、路線バスの運行便数が少なく、利用が極めて少ないエリアが複数存在した。 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>公共交通アンケート調査による日常のトリップと合わせて、再編実施計画の検討に活用する。</p>
<p>【アンケートの分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常のトリップに関する調査では、通勤通学に車を利用する人が約80%であるのに対し、路線バスは2.5%、公共交通機関全ての合計でも16%程度と自家用車の依存度が非常に高かった。 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>自家用車への依存度や公共交通機関の満足度については、地域公共交通網形成計画の目標値に活用する。自家用車への依存度を下げるモビリティマネジメント事業や、公共交通機関、とりわけ路線バスの満足度を向上させるために、ダイヤの見直しや待合環境等の整備を実施事業とする。</p>
<p>【圏域内公共交通網の見直し案の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域がめざすまちづくりの方向性を踏まえた公共交通の役割と課題の整理 ・目標設定と具体的な取り組みの検討 	<p>B</p> <p>連携計画を基礎に検討することとしていたが実効性のある再編につながる計画とするため新たに検討すべき点が多くあり、予定より遅れている。</p>	<p>観光事業やまちづくりとの整合性について、交通事業者や関係部局との議論を進める。</p>
<p>【地域公共交通網形成計画の取りまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討結果をもとに、交通事業者、学識経験者等と議論を重ね、計画案を取りまとめる。 	<p>B</p> <p>連携計画を基礎に検討することとしていたが実効性のある再編につながる計画とするため新たに検討すべき点が多くあり、予定より遅れている。</p>	<p>観光事業やまちづくりとの整合性について、交通事業者や関係部局との議論を進め、平成28年3月に素案を取りまとめる。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域協働推進事業)

平成 28年 1月 6日

協議会名 湖東圏域地域公共交通活性化協議会

① 事業の結果概要	② 事業実施の適切性	③ 事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>【認定を受けた地域協働推進事業計画に基づいて実施した事業内容を記載】</p>	<p>A . B . C 評価</p> <p>【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】</p>	<p>【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割・連携のあり方等を記載。】</p> <p>※年度ごとの定量的な目標を定めている場合等にあっては、各年度の目標達成状況について把握しておくことが望ましい。</p>
<p>【バスダイヤ改善、バス系統再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラッピングバスの導入 ・短距離低減運賃(駅チカ100円区間)の本格実施 ・高校生限定青春フリー定期の本格実施 ・イベント(ご当地キャラ博2015)との連携による近江鉄道と路線バスの企画切符、路線バスの増便 <p>【予約型乗合タクシーの運行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の需要増加を見越した、ダイヤ再編 ・同停留所間の利用で路線により異なる運賃の是正 ・鉄道駅との接続を図るためのダイヤ改正 ・地域住民や自治会等からの要望に対応した停留所の新設・移設 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>平成28年度に利用者数74万人(平成25年68万人)への増加目標に対し、平成27年度は利用者数76万人と上回ることができた。</p> <p>引き続き、協議会構成市町およびバス事業者と協議しつつ、利用促進に努め、需要が見込める路線の増便を視野に入れたバス系統の再編を検討していく。</p> <p>引き続き、協議会構成市町および運行事業者と協議しつつ、将来の需要を見込んだ予約型乗合タクシー運行の効率化を図り、乗合率向上のための具体的施策を検討する。</p>
<p>【紙媒体での情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤ改正や停留所の新設・移設等に伴い、パンフレットの作成および情報提供 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている(見込みを含む)。</p>	<p>引き続き、パンフレットの作成および見やすさ向上のためにパンフレット構成を検討する。</p>
<p>【WEB/携帯での情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖東圏域を中心とした公共交通のダイヤ検索システムの精度向上 	<p>B</p> <p>公共交通に馴染みのない住民に対して予約型乗合タクシーを含め適切な案内ができるようにシステムの精度を向上させる作業が難航しており、事業が計画より、遅れている(見込みを含む)。</p>	<p>引き続き、ダイヤ検索システムの使いやすさ、わかりやすさ向上のために改良を重ね、公開する。</p>

<p>【かこいクルマの使い方を考えるプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖東圏域公共交通ニューズレター」の発行 ・小学生を対象にしたモビリティマネジメントの実施 ・路線バス情報の提供による提案型利用促進 ・交通安全の取り組みと連携した利用促進 ・車内空間を利用した情報提供 ・イベントと連携した利用促進 ・鉄道駅周辺エリアの利用促進 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている(見込みを含む)。</p>	<p>引き続き、運行事業者や地域と連携し、わかりやすさを重視した情報提供と利用促進に努める。</p>
<p>【観光客の公共交通利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント(ご当地キャラ博2015)との連携による近江鉄道と路線バスの企画切符、路線バスの増便 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>引き続き、来年度も事業を実施するとともに、外国人観光客への情報提供方法を検討する。</p>
<p>【連携計画のフォローアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通網形成計画の策定作業 	<p>B</p> <p>当初の計画を変更し、地域公共交通網形成計画の策定作業を行っているが、将来のまちづくりを深く見据えた計画内容の検討に時間を要しており、作業が遅れる見込み。</p>	<p>引き続き、計画内容の議論を協議会構成市町(観光部局等含む)や事業者、有識者等との議論を重ね、検討していく。</p>

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成28年 1月 6日

協議会名:	湖東圏地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【事業実施の目的・必要性】 湖東圏域には多くの公共交通空白地域が存在し、住民の日常生活に不便を強いられている状況である。一方、路線バスについても、毎年多額の赤字額を計上しているなか、交通空白地域においてバス路線で対応することが困難である。そのような中で、比較的低コストで交通空白地域の解消を目的として、セダン型タクシーを活用した予約型乗合タクシー「愛のりタクシー」を導入し、確保・維持することにより、交通空白地域の解消と住民の移動手段の確保を図るものである。</p> <p>【生活交通ネットワーク計画との関連】 地域協働推進事業に含まれる予約型乗合タクシーの運行や紙媒体・WEB/携帯での情報提供が、生活交通ネットワーク計画(地域内ライダーシステム)と密接に関連しており、生活交通ネットワーク計画の目標を協働推進事業の目標の一つとして定めている。そのため、協働推進事業で実施したダイヤ改正や、地域住民や自治体等の要望に対応した停留所の新設・移設、パンフレットによる周知等は生活交通ネットワーク計画の目標達成に寄与している。今後は、予約型乗合タクシーの効率化を図り、目標である乗合率向上の具体的施策を検討する必要がある。</p>